

I. 一般目標 (General Instructional Objective)

精神疾患の正しい知識と診療の技術を学び、将来専攻する専門臨床領域においても精神疾患を有する患者への正しい対応ができるようになる。

II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

精神神経疾患一般について、生物学的・心理学的・社会的な複合的視点から診療にあたる。

1. 病棟: 全国の大学病院に先駆け精神科急性期治療病棟の認定を受けている。

- ①面接技法を学び、診断に至る過程を理解する。
- ②脳波や画像検査を判読、評価し、診断や治療効果との関連について理解する。
- ③抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠導入剤、抗てんかん薬などの作用、副作用について理解し、使用することができる。
- ④個人精神療法および集団精神療法、家族面接に実際に参加し、その方法論や技法について理解する。
- ⑤作業療法および屋外レクリエーションに参加し、その意味と効果について理解する。
- ⑥無けいれん通電療法(以下mECT)の適応とその効果について理解出来る。
- ⑦多職種による医療チームのリーダーとしての医師の役割について学び、チーム医療を実践できる。

2. 外来: 毎日200名前後の再診と、10名弱の新患の診療を行っている。

- ①新患の予診を行い必要な情報の収集が出来る。
- ②診察から診断に至る経緯、治療方針の決定方法等を理解出来る。
- ③外来患者の再診時の精神症状の評価、治療方針について意見を述べることが出来る。

3. コンサルテーション・リエゾン: 昭和58年から「御用聞き」な手法を用いたりエゾン回診を行っている。

- ①身体科入院患者の精神科的問題(せん妄、うつ状態、不安、不眠など)について理解する。
- ②患者、家族、医療スタッフの心理的問題について理解する。
- ③薬物療法の選択や心理的問題への対処法について理解する。

4. デイケア: 平成元年に開設され、地域社会へのリカバリーを目指した取り組みを行っている。

- ①デイケアに実際に参加し、通所しているメンバーと接しながらリカバリーの意味について学ぶ。
- ②デイケアで行っているIMR(病気の自己管理とリカバリー)やリワークプログラム(復職支援デイケア)について理解する。

III. 方略 (Learning Strategies)

本プログラムの方略は、以下の様に指導医監督のもとで行えるように設定する。

- ・主治医に陪席し、診療助手を主に担当する。
- 主治医のもと、以下の診療項目について急性期病棟、精神科専門外来、精神科デイケア、精神科リエゾンを中心に、診療を担当する。急性期入院患者に関する症例は救急研修の一部とみなす場合がある。
- 医療面接、身体診察、カルテ記載、病状・方針説明、検査オーダー、投薬治療、コンサルテーション、紹介状・返書の作成、精神科リエゾンなど
- ・勤務時間帯以外の研修は、精神的/肉体的負担にならない範囲での自己研鑽は、自主的に行うことを容認する。

・研修関連の各種勉強会やカンファレンス等にも適宜参加する。また、必要に応じて医学生への学習支援や協調学習を実施する。

・振り返り: 当日に、指導医と研修に關しての振り返りを行う。

・自己研修: 振り返りののちの自己学習。

・週間レビュー: 指導医と、今週の目標の到達状況の確認と次週への修正を協議する。

シミュレーション研修

研修内容(手技): 該当なし シミュレータ: 該当なし

IV. 経験できる疾患・手術など

統合失調症、気分障害、てんかんなどの精神医療の中核的な疾患から、強迫性障害、不安障害、PTSDや摂食障害などの神経症性障害、器質性精神障害や発達障害他、幅広く多様な疾患を経験できる。

睡眠障害、睡眠時無呼吸症候群、てんかん、認知症は専門外来で診療している。

身体合併症を有する精神疾患患者の治療管理やコンサルテーション・リエゾンでの対応、各種心理検査の実践や無けいれん通電療法(修正型電気けいれん療法)なども経験できる。

V. 評価 (Evaluation)

指導医は、毎週、臨床研修医手帳に記載された到達目標の達成度チェックの上、研修医へフィードバックを行い、目標への到達状況に応じて、次週の目標を適宜修正する。また、それらの進捗については、適宜総括的評価への情報提供を行う。

研修期間最後には、精神科診療に関するテーマでまとめの発表を行う。研修終了時に最終的な評価をEPOC等に入力する。

VI. 指導者と研修施設

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 1. 診療部長 | 小曾根 基裕 |
| 2. 指導責任者 | 佐藤 守 |
| 3. 指導医 | 佐藤 守、江口 寛 |
| 4. 研修施設 | 久留米大学病院、聖ルチア病院、のぞえ総合心療病院、筑水会病院 |

VII. 週間予定

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 月 AM | 病棟勤務・作業療法・mECT |
| | PM 病棟勤務・デイケア・講義 |
| 火 AM | 退院前カンファレンス |
| | AM 病棟スタッフミーティング |
| | PM 病棟勤務・屋外レク・集団精神療法・講義 |
| 水 AM | 病棟勤務・外来勤務・作業療法・mECT |
| | PM 病棟勤務・外来勤務・作業療法 |
| | PM 外来勤務・集団精神療法・作業療法・講義 |
| 木 AM | 病棟勤務・屋外レク・mECT |
| | PM 病棟勤務・作業療法・集団精神療法・認知症研修(隔週で協力病院へ) |
| 金 AM | 教授回診・入院カンファレンス |
| | PM リエゾン回診・病棟勤務・週間レビュー |
| 土 AM | 病棟勤務 |

* 研修協力病院で研修の場合は各病院の予定に従う。認知症は協力病院で研修する。

* 協力病院で研修をしている者は、リエゾン・臨床講義は久留米大学病院で研修し、講義を受ける。